

## 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。鈴蘭学園は、去年秋からの相模原市の利用料補助対象の「市登録フリースクール」となり、お子さんが増えてきています。こうやって、子どもたちの受け入れをできる居場所として成り立っているのも会員さんたちのお陰だいつも感謝しております。ありがとうございます。今年度もあと少しとなりましたが、次年度に向けてスタッフ一同新たな挑戦もしながらやっていきたいと思ひます。まだまだ、寒い日は続きますが、お体には十分気をつけて暖かくなる春を元気に迎えましょう！

(中村 鳴美)

## 不登校相談会

1月末の土曜日に厚木で不登校相談会が行われました。鈴蘭学園からは少し遠い場所となりますが、現在厚木市から来られているお子さんもいます。この日は、63組89人来られ相談件数は83件でした。座談会では、登壇者4名(不登校だったお子さんの親御さん2名と今は成人されて昔不登校だった当事者2名)のお話がありました。最後にコーディネーターが「不登校とは」と聞いたところ、当事者からは、戦争みたいだと言ったのが強烈でした。大変重い答で、改めて当事者の苦悩について思いを巡らせなければならぬと感じました。(中村 鳴美)

## 本年の展開について

フリースクール、放課後等デイサービスそれぞれで、利用者ニーズに対応するべく、日々の運営に関わっておりますが、なかなか難しいものです。

しかし、難しいから出来ない、やらないのではなく、その中から可能性があれば、それらを活かして次なる方向性へと見出していければ良いのではないかと考えています。

フリースクールでは、通信制高校の学習センター(サポート校)を併設するべく、動き出しました。子どもたちの道しるべの一つになってくれればと思います。放課後等デイサービスでは、2つの施設でそれぞれのカラーを活かした療育支援、学習的な支援などを展開していければと考えています。

現場職員とともに、今年もよろしくお願いします。(桑原 和也)

## 避難訓練

鈴蘭学園では年2回避難訓練を行っています。施設から歩いて5分ほどの場所にある村富神社が一時避難場所に指定されています。震度5程度の地震を想定し、揺れが収まるまでの行動と、その後の移動について実際に体験します。たまに乗り気ではなく参加を拒む児童もいますが、大切な事なので何とか納得して参加してもらっています。

今年は訓練後に神社で安全祈願のお参りもしました。(菅原 雅史)



2月  
リリーベル矢部だより

寒さが厳しい時期ですが、お子さんたちは元気に活動しています。  
2026年も、リリーベルをどうぞよろしくお願いいたします！

### 焚き火界限→ラーメン鍋



焚き火ブーム到来！  
むずかしい火おこしも  
自分達でやってみました！

### 大掃除→きりたんぽ鍋



お米をつぶしてお箸にまきつけて...  
立派なきりたんぽ鍋の完成です。

### 大根収穫→おろし鍋



大根おろしアート！  
かわいすぎてたべるのがもったいないー

### 看板をリニューアルしてくれました☆





## リーベルさがみはら



寒い日が続いていますが、お子さんたちは寒さに負けず全力で活動しています。冬休みには電車の乗り方を学びながらお出かけをしました。電車が好きな子は車両の写真を撮ったり、自然が好きな子は公園の砂山で石の発掘作業をしたり、からだを動かすことが好きな子は公園を走りまわったり。また、お年玉を資金にお菓子屋へ行き、計算をして予算内に収めたり、家族へのお土産はどれがいかなと頭を悩ませながら買い物をしました。家族へのお土産を忘れない優しい気持ちに心があたたくなり、寒さも吹き飛びました。

### スタッフ日記

ある日の活動はうどん作り。人数分の粉を計量し、塩水を混ぜてこね、生地を足で踏む。生地を打ち粉をしてめん棒で薄く延ばし、包丁で細く切る。麺を茹でている間に麺つゆを温め、ねぎを細かく切り、茹で上がった麺を器に盛る。これらの工程の中で、子どもたちは自分が参加したい、もしくは参加できると判断した作業に思い思いに参加する。

Aさんは、職員の説明をよく聞き、ほとんどすべての工程に黙々と取り組む。Bさんは、「生地を切るのは怖いから見ていてもいい?」「麺を茹でるのはやってみよう!」と、自分のできごと気持ちのバランスを調整する。普段調理にはあまり参加したことがないCさんは、生地を踏むのに夢中。生地の上で跳んだり走ったり、とにかく体を動かし踏みまくりながら、「自分で食べるものは自分で準備するんだよ!」と、これまで自分が言われてきたであろう言葉を他の子に意気揚々と伝えて回る。そんなCさんの論しをものともしないDさんは、「絶対にやらない!!」と確固たる自分の意思を貫き、好きな遊びに全力投球する。その横にいるEさんは、生地を踏んで欲しいという職員の度重なる声掛けに、「え~~~~(やりたくないけど)、、、手で踏むならいいよ。」と、遊びの手を止めずに渋々応える。

同じ活動をとっても、これほどまでに自由な参加スタイルがある。そして、それをありのまま受け止める、寛容であたたかいのがこの場所である。そんなリーベルだからこそ、子どもたちは安心して通い、自己表現ができるのであろう。提案はするが強要はしない。期待をもって接するが成果は求めない。子どもと関わるうえで、大切にしたい気づきが毎日ある。

自分を受け止めてもらえる場所で心が満たされる経験が、子どもの成長につながるのだと実感する。



### デイキャンプ・焚火

炎のゆらぎに癒され  
炎の熱さを肌で知り  
炭のにおいを感じた  
じっと炎に見入る姿  
子どもたちは何を感じたかな…

### 中村のちょっと感動した話

冬休みも終わり、登園してきた中3の子どもが、あとここに来られるのが何日もないと言いました。それを聞いた他の中3の子どもが、「僕はそれは考えないで過ごしたい」と話していました。それを聞いて中村は、心がじ〜んときました。最初は不安だったでしょう。しかし、信頼できる友を見つけ、笑いある時間を過ごし、学び、あなた達はとても成長しました。その名残り惜しさを糧にしてください。今日が終われば明日は来る。寂しいけど子どもたちの会話から「生きる」を実感しました。



つらいことがあったらこの顔を思い出してね!

## お悩みの方、ご相談ください。

自信・活力・自分らしさを取り戻すため、あなたと共に問題に向き合います。  
まずは、ご相談ください。

相談専用ダイヤル TEL: 042-733-0015

電話相談事業は、神奈川県フリースペース等補助金により運営しています。